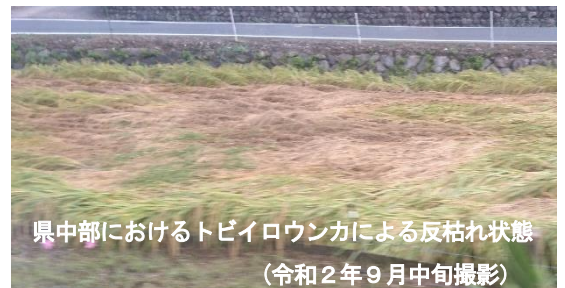


水稻トビロウンカの防除の徹底を！

病害虫防除所が行った9月23～24日の巡回調査によると、県南部地域でのトビロウンカ発生圃場率は88.6%（平年：17.4%）と依然非常に高い状態が続いています。これまで病害虫防除所は、トビロウンカについて発生予察注意報第3号（7月9日）、発生予察警報第1号（8月19日）及び植物防疫情報第8号（9月3日）を公表し、防除の徹底をお願いしているところですが、各地域でトビロウンカによる坪枯れ被害が散見され、被害が激しい圃場では圃場全体が枯れ上がる反枯れ状態も見受けられます。今後、被害が更に拡大する恐れがあるため、晩生品種等の収穫に向けて、防除の徹底をお願いします。



《防除対策》

- すでに坪枯れの症状が発生している、またはトビロウンカの株元生息数が多く坪枯れの発生が予想される圃場で、収穫期が近い場合は可能な限り収穫を早めて被害の拡大を防ぐ。収穫期まで期間がある場合は早急に防除を徹底する。なお、本虫は圃場内で局所的に生息するため、圃場の中央部まで入りながら、なるべく多くの株元をよく観察する。
- この時期の防除には、効果の発現の遅い粒剤は用いず、粉剤、液剤を散布する。粉剤、液剤は、虫体にかからないと十分な効果が得られないので、株元に生息するトビロウンカにかかるように丁寧に散布する。薬剤散布は、特に農業使用基準の収穫前日数をよく確認して行う。

表 水稻におけるトビロウンカの主な防除薬剤（令和2年9月24日時点）

| 薬 剤 名 | 農 薬 使 用 基 準 | | | IRAC コード ²⁾ |
|-----------------------------|-----------------|------|-------------|---------------------------|
| | 使用時期 (収穫前日数) | 使用回数 | 使用濃度 使用量 | |
| トレボン粉剤DL ¹⁾ | 収穫7日前まで | 3回以内 | 3～4kg/10a | 3A |
| MR. ジョーカー EW ¹⁾ | 収穫14日前まで | 2回以内 | 2,000倍 | |
| MR. ジョーカー粉剤DL ¹⁾ | 収穫7日前まで | | 3～4kg/10a | |
| スタークル/アルバリン粉剤DL | 収穫7日前まで | 3回以内 | 3kg/10a | 4A |
| スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 | 収穫7日前まで | | 3,000倍 | |
| ダントツ粉剤DL | 収穫7日前まで | 3回以内 | 3～4kg/10a | 4C |
| ダントツ水溶剤 | 収穫7日前まで | | 4,000倍 | |
| エクシードフロアブル | 収穫7日前まで | 3回以内 | 2,000倍 | |

¹⁾ の薬剤は水産動植物に対する危害が発生しやすい地域及び発生するおそれのある地域では使用しない。

²⁾ IRACコードによる農薬有効成分の作用機構の分類。

農薬の使用に当たってはラベルをよく読み、農薬使用基準を厳守する。また、ドリフトに注意するなど安全・適正に使用する。

この情報は、発生予察注意報第3号、発生予察警報第1号及び植物防疫情報第8号とともに、岡山県病害虫防除所ホームページでも公表しています。

アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

